

幼稚園の 子どもたち



おとうさんと おかあさん おねえちゃんわたし おとうとが
うまれて 5にんかぞくになったよ。いつもみんなでわらっている
よ。きょうはなにをしてあそぼうかな。

▲ たけうち にこ さん (風かおる丘幼稚園 年少3歳)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「かけがえのない大切な命」

親学 ノススメ

自分を大切にできる子どもは、友達も大切にできる

東桜幼稚園 村瀬 泰信

命を大事にするとはどういうことでしょうか？子どもが親や友達など他者とのかけがえのない命の大切さに気づき、大事にしようとする心を育てていくことは幼児期の教育にとって、とても大切なことです。ここでは子どもが命の大切さに気付く第一歩として「自分を大切にできる」「友達を大切にできる」気持ちをどのように育てていくのかについて少し考えてみましょう。

自分を大切にすることは、自分に自信をもつことや自分の長所も短所も前向きに受け止めることができる感情を育てていくことといつてよいでしょう。自分を大切にできる気持ちが育つと何事にも挑戦する前向きさや他者へのいたわり・優しさが芽生えてきます。褒められれば素直に喜び、叱られればアドバイスを聞き入れてまた頑張ろうとする姿勢が生まれます。逆に自分を大切にできる気持ちをもてないと、子どもは何か失敗した時、必要以上に落ち込んだり自分を責めたりするようになってし

まいます。また、自分を否定する感情が周囲との関わりやつながりを断って「友達を大切にできる」ことができなくなってしまいます。「自分を大切にできる気持ち」は幼児期にその土台が形成されるということが一般的に知られています。そこでは特に子どもが愛されていると実感すること、やればできるという自信をもつこと、の二点が非常に重要であると言われています。親は子どものありのままを受け入れ、いつも味方であることが大切です。子どもが子どもなりに頑張った時はどんなに小さなことでも認めて褒めることが必要です。例えば、お手伝いをしてくれた時などは「ありがとう、とっても助かったよ」と感謝の気持ちをきちんと伝えましょう。

「自分を大切にできる気持ち」を育てるのは言葉で理解しても日々の生活で実践するのは難しいと感じられることはよくあることです。そんな時は子どもをギュッと抱きしめることから始めてはいかがでしょうか。

家庭の日 図画作品



かぞくで きょうりゅうはくぶつかんにいったよ。おおきくて
つよそうな きょうりゅうたちにあえて ほくは とてもうれし
かったよ。また みんなでいきたいな。

▲ ささき けいた さん (二城幼稚園 年長5歳)



ばばと ままと さんにんで つみきたわーにちょうせんしたよ。
ばばと ままは <ーんとてをのぼして うんとたかくまでつんで
いたよ。わたしは がんばれがんばれと おうえんしたよ。

▲ おおや かほ さん (第三幼稚園 年中4歳)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

「ザリガニさん、こんにちは」

楠西幼稚園長
沖 壽美代

本園には、ビオトープの池があります。ビオトープとは、「生物が生息する場所」のことです。この池で、メダカ、オタマジャクシ、ヤゴ、ドジョウ、ザリガニなど、たくさんの生き物と出会うことができ、子どもたちの人気の場です。

子どもたちは、池で「釣り」と称して、かごで生き物をすくい取ることに熱中します。今年は池の中でたくさんのザリガニが育ちました。はじめは、触ることに抵抗を示していた子どもたちも、脱皮したてのザリガニを捕まえたとき、あまり動かないのを見て、そっと触ってみることにしました。「わっ、やわらかい」「ぶよぶよする」と口々に感じたことを友達に伝えていました。すると、「先生、持たせて」と勇気を出して持ってみようという子どもが出てきました。直接持つことができる「おおっ」と思わず声が出て、自分の手で持ったうれしさを味わっていました。こうして、子どもたちは、だんだんザリガニをつかむことが平気になっていきました。

ある日、数人が一人一匹の“マイザリガニ”を持ち、築山に散歩に出かけたり、木製遊具の綱にザリガニを登らせたりして触れ合っていました。すると、一人の子どもがザリガニの元気がないことに気がきました。

「どうしよう」「やはり水の中じゃないと生きられないんじゃない」「かわいそうだよ」と相談し、池に戻してあげることにしました。中には“自分の”ザリガニを手放したくない子どももいましたが、周りの子どもの「死んじゃうよ」の言葉に心を揺らし、そっと池に戻していました。

このように、子どもたちが心をときめかせ、目を輝かせて身近な生き物と触れ合う体験を繰り返す中で、次第に身近な生き物に親しみの気持ちをもったり、いたわったり、大切にしたりしようという気持ちが育まれています。



初めての生き物

飯田幼稚園 保護者
中島 由香理

昨年の夏に、子どもたちとお友達の家に遊びに行った時、初めてメダカの卵を見ました。初めて見るメダカの卵に子どもたちも私も興味津々でした。帰る時にメダカの卵を30個ほどいただき、我が家でもメダカを育てる事にしました。

子どもたちにとっても私にとっても、メダカを卵からふ化させて育てるなど初めての事で、最初から不安でした。

それから、毎朝起きる度、幼稚園から帰る度、卵を見ては「まだかな？早く生まれないかな？」と子どもたちと会話したことを覚えています。

ある朝、「ねえ、お母さん。見て、見て。2匹も生まれてるよ！」と子どもが大きな声で言いました。見てみると針の先ほどの小さなメダカの赤ちゃんが2匹、元気よく泳いでいました。私も思わず「わあ、すごー

い！」と大声で喜びました。

それから数日、ほとんどの卵がふ化し、現在では、12匹が3センチほどになり、大人のメダカに成長してくれました。数匹死んでしまったメダカもいて、悲しむ時もありましたが、今、子どもたちは元気に生きているメダカの世話を一生懸命やっています。

今回、メダカの卵をふ化させ、育ててみて、子どもたちにとって生き物の命の大切さ、育てることの大変さを学ぶ良いきっかけになりました。

そして、私自身も生き物の命について考えさせられました。

これからも、子どもたちに命の大切さを伝えていき、命を大切にできる人に成長して行ってほしいと思います。

「子育てQ&A」



思う通りにならないと、手が出てしま

- います。親としてどのようにかかると
- よいのでしょうか。



“我が子が友達に手を出してしまった”と聞いたら、きっと親として悲しい気持ちになると思います。でも、もしかしたらお子さんにも「友達の方が先に手を出してきたから…」「嫌なことを言われて…」「ちょっとふざけちゃって…」など、言い分があるのかもしれませんが、理由があれば手を出してもいいというわけではありませんが、まずは子どもの話に耳を傾け、どうして手を出してしまったのか受け止めることから始めましょう。緊急性や手の出し方にもよりますが、思いも聞かずに「叩いたらだめでしょ!」と一方的に叱るより、話を聞いて受け止めたうえで「叩かれて痛かったと思うよ」「叩かずに我慢できたらカッコよかったね」と言う方が、伝えたい事が子どもの心に届きやすいものです。

子どもが手を出す理由には、成長段階により言葉がうまく使えないため、嫌なことがあったときに衝動的に手が出てしまう場合や、心の中に何か満たされないイライラがある場合などがあります。どちらの場合も、幼稚園

の先生や身近な人など、できるだけ多くの目で子どもを見守り、間違った行いをしてしまったときには、その場でどうするとよいかを伝えるよう心掛けましょう。

親も人間ですので、子どもの姿につい情けない気持ちになったり、カッとしてしまったりすることもあると思います。でも、親は子どもにとって一番頼りになる大好きな人です。親の感情的な言葉に子どもが傷つき、見放されたと感じてしまったら、子どもは心の拠り所をなくし不安でいっぱいになるでしょう。家庭では、お子さんが愛されていると感じられるように「大好きだよ」と言葉で伝えたり、ぎゅっと抱きしめたりして、心の安定を図ることが大切です。

子どもは“うれしかった”“嫌な気持ちになった”“うまくいった”“失敗した”など、様々な感情を揺さぶられる体験をしながら日々成長しています。すぐには変わらなくても、子どもの成長を信じて、よい事と悪い事、その理由を根気よく伝えていきたいものです。

こんなほん あんなほん 「～命のつながり～」

◎ コラム ◎

読み聞かせて、
親子のきずなを深めましょう

『ちびゴリラのちびちび』

ルース・ボーンスタイン／作
いわたみみ／訳
ほるぶ出版



ちびゴリラのちびちびは、両親だけでなくジャングルの誰からも温かく見守られています。愛される経験は子どもの自己肯定感を高め、友達を大切にすることを育ててくれます。

『たべることはつながること しょくもつれんさのはなし』 (みつげようかがく)

パトリシア ローバー／作
ホリー ケラー／絵
ほそやあおい、くらたたかし／訳
福音館書店



人間を含むすべての動物は、食物連鎖の仕組みの中で生きています。命を貰い受ける関係性を知ること、生き物の命の尊さに気づき、命の大切さを考えるきっかけとなります。

『あかちゃんがやってきた』

角野栄子／作
はたこうしろう／絵
福音館書店



ほくのうちに赤ちゃんが生まれるらしい。嬉しい反面、複雑な気持ちだけれど、生まれたら一緒に遊んであげるんだ。新しい命の誕生を待ち望む、お兄ちゃんの喜びが伝わってきます。

子どもたちは、絵本を読んでもらうのが大好きです。それは、お話がたのしいからだけでなく、自分を愛情深く受け止めてくれる大人の存在も嬉しいからです。ですから、たとえ文字が読めるようになって、子どもが「読んで」と言ってくる間はぜひ読んであげましょう。最近では、テレビ以外にもスマートフォンやゲームなどのメディア機器に、大人も子どもも多くの時間を費やしているように見受けられます。少しそういうものから離れて、親子で向き合う時間を設けてみましょう。その時に絵本の読み聞かせは、親子の心を通わせ、きずなを深めるきっかけとなってくれます。親子で共有した「絵本の体験」は、子どもの心を育て、また親子双方の心に残る幸せな時間をもたらすでしょう。

名古屋市鶴舞中央図書館
児童担当：中村・西・金子・足立

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

鶴舞中央図書館からの紹介です

名古屋市動物愛護センター



名古屋市動物愛護センターは、犬や猫のかわいしさを観察し、ふれあうことができる施設です。犬との正しいふれあい方を伝えるふれあい広場、しつけに関するさまざまな工夫を展示した犬ルーム、猫を室内で飼育するためのアイデアを展示した猫ルームがあります。

また、飼えなくなってセンターに持ち込まれた犬猫、迷子で飼主が見つからなかった犬猫の新しい飼主を募集しています。その他に、犬や猫の正しい飼い方やしつけ方、ふれあい方をお伝えしていますので、犬や猫を飼っている方、これから飼おうしている方はぜひお越しください。

「犬猫を飼う前教室」 2月12日(日) 13:30~16:00

動物の安易な飼養を防止するために、犬や猫を飼いたいと思っている方を対象に開催する教室です。動物を飼うことの責任の重さやライフスタイルにあった動物種を選択などについてお伝えします。参加には事前の申し込みが必要です。



開館時間 午前9時30分~午後4時30分
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は直後の平日が休館日になります)
入場料 無料
所在地 名古屋市千種区平和公園二丁目106番地
アクセス 地下鉄名城線「自由ヶ丘」下車、2番出口から徒歩15分(鹿子公園経由)
 基幹バス2「千種台中学校」から徒歩10分(鹿子公園経由)
 地下鉄東山線「星ヶ丘」から市バス「自由ヶ丘」に乗り、「平和公園南」下車、徒歩15分
問い合わせ TEL 052-762-1515

家庭の日 図画作品



かぞくで こうえんにいったよ。みんなででてんしゃにのって たのしかったよ。とてもあつかったけど おそらのくもが きれいだったよ。また よにんで おそとに あそびにいきたいな。

▲ かわむら さあや さん (愛知教育大学附属幼稚園 年長5歳)



おとうさんと おかあさんと きょうだいみんなといっしょに ちかくのこうえんの おまつりにいったよ。おおきなおとで ほんおどりのきよくが ながれていて いろんなひとが おどっていて たのしかったよ。

▲ さとう いっさ さん (慶和幼稚園 年長5歳)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

手をつなごう 心もつなごう 家庭の日

毎月第3日曜日は「家庭の日」

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころです。

子どもは、家庭における家族との会話やふれあいを通して、基本的な生活習慣を身に付け、豊かな心を育てていきます。

市では、家庭の役割や大切さを考える機会としていただくため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、「家庭の日」をテーマにした図画・ポスター・作文募集などの普及啓発事業を行っています。

「家庭の日」の詳細は、名古屋市公式ウェブサイトに掲載していますので、ご覧ください。(http://www.city.nagoya.jp/から「家庭の日」で検索)

1月14日(土)は、日本ガイシホールにて「ファミリーデーなごや」を開催しました。あいにくの雪空でしたが、多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。

お問い合わせ 教育委員会生涯学習課(TEL972-3253)まで

編集後記

保護者の皆様や編集委員の皆様のご協力を得て、今年度の「幼稚園の子どもたち」NO. 3が発行できました。ご協力ありがとうございました。

今号は、「かけがえのない大切な命」をテーマに取り組みました。子どもが自らを大切にできるようにするためには、親から愛されている、大切にされているということに気付く体験することが大切です。親が、日常生活の中で子どもの話、子どもの言い分をよく聞くようにすることが愛されている実感につながっていくのではないのでしょうか。

子どもたちが自他ともに命を大切に、心豊かに成長されることを願っています。

皆様の協力を得て、今年度3回の「幼稚園の子どもたち」が発行できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

*ご意見ご感想をお待ちしています。係までお寄せください。

- 編集/名古屋市教育委員会・名古屋市立幼稚園長会・名古屋市私立幼稚園協会
- 発行/〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 名古屋市教育委員会
- 担当/生涯学習課 社会教育係
TEL 052-972-3253 FAX 052-972-4178

電子メールアドレス

a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。